



いじめをなくすために

いじめはいつでも、どこでも、どの子どもでも起こりうるものとして受け止め、学校ではいじめは絶対に許される行為ではないということを全教育活動で繰り返し指導しています。しかし、残念ながらいじめを根絶させるということは非常に難しい課題です。

少しでも早い段階で子どもたちの悩みの芽を摘んであげることができれば、いじめは確実に減っていくと考えられます。家庭や地域の皆様と学校とが手を取り合って子どもたちを見守り、子どもたちに安心感を与え、みんなでいじめのない小山市を目指していきたくと強く願っています。

そこで、以下のような「いじめをキャッチするチェックポイント」を作成しました。子どもの悩みをキャッチする視点として是非ご家庭や地域でご活用いただければ幸いです。



衣服や 持ち物	洋服がよごれたり、やぶれたりしている
	持ち物がなくなることが多い
	教科書やノートなどが落書きされたりやぶれたりしている
身 体	身体にアザや傷があったり、鼻血を出したあとが見られたりする (衣服にかくれていて見えない部分にも注意)
	食欲がなくなる
	頭痛、腹痛、吐き気、不眠などを訴える
感 情	表情が暗くなり、親や家族と視線を合わせるのを避ける
	口数が少なくなり、学校や友人のことを話さなくなる
	いらいらしたり、おどおどしたりするようになる
行 動	夜中や休日に呼び出されるようになる
	かくれてこそこそ電話をかける
	親や家族に暴力をふるったり、口ごたえをしたりする
	外で遊ばなくなり、部屋に閉じこもる
	電話が鳴るとおびえる
	お金の使い方が荒くなる
	家族の財布などからお金を抜き出す
	欠席や遅刻が多くなる
	勉強する意欲がなくなり忘れ物が多くなる
「学校がおもしろくない」「学校に行きたくない」などと訴える	
その他	気になる電話がかかってくる
	見かけなかった友人がよく訪ねてくる
	いやがらせの手紙や紙切れがある



いじめを察知したり、気になる様子があったりした場合は、まずは保護者の皆様が子どもから直接お話を聞いてあげてください。感情的にならずに、「そうか、つらかったね。」といった共感的な聴き方をすると、子どもはより多くのことを打ち明けてくれます。その後、学校にご連絡ください。家庭と学校が協力して解決に向けて動き始めます。